

田村佳子教授の定年ご退職に寄せて

教育福祉学部長 山本理絵

教育発達学科の田村佳子教授は、2024年3月をもって定年によるご退職を迎えられます。1997年4月に本学に着任されて以来27年間、田村先生が果たしてこられた教育、研究さらには大学運営におけるご功績には、大きなものがあります。この場を借りて改めて感謝申し上げるとともに、ご退職をこころから祝福いたします。

田村先生は、1959年に名古屋市で生まれ、1982年3月に名古屋大学教育学部を卒業後、同大学院教育学研究科博士後期課程を単位取得満期退学されました。広島大学総合科学部平和科学研究センターに勤務された後、1997年に本学文学部児童教育学科（愛知県立女子短期大学児童福祉学科）に着任されました。今年度まで、以下のように、教育福祉学部及び大学院人間発達学研究科、そして愛知県立大学全体の発展に多大なる貢献をされました。

研究活動では、社会教育学を専門とされ、アメリカ合衆国における女性労働者の学習と教育活動、英国成人継続教育、EU生涯学習政策について研究を進められました。2007年11月から2008年8月までは、英国・リーズ大学で、学外研究に専念されました。比較研究の方法により、海外の動向を分析するとともに、生涯学習政策が進行しつつある中での日本の社会教育の意義と課題を提起してされました。

教育においては、英文の原書講読や全学の教職科目も担当され、学生のニーズに応え、幅広いテーマに対

応した学部卒業論文の指導も行ってされました。学科学生の合宿セミナーなどの行事にも積極的に参加され、教員養成・保育者養成に貢献されました。また、大学院生の修士論文も丁寧に指導されてされました。

大学運営においては、教務委員を正・副含めて6年間ほど務められました。また、入試委員も4年間ほど担当され、そのうち学部の入学者選抜委員会委員長を2年間務められました。全学のキャリア支援委員、ハラスメント相談員等の貴重な役割も果たしてされました。さらに、学科主任を3年間、生涯発達研究所長を2年間、地域連携センター長補佐を7年間務めるなど、学科・大学の運営に尽力されました。

社会貢献としては、日本社会教育学会において年報編集委員、査読委員等として貢献するとともに、社会教育分野で異彩を放つ研究会の事務局を10年間ほど担ってされました。地域においては、東郷町における男女共同参画プラン策定委員会副委員長を2年間、長久手市放課後子ども教室運営委員会委員を12年間、長久手市行政改革推進委員会委員を4年間務めるなど、専門を生かして社会貢献されました。

以上のように、田村教授は、本学着任後、教育・研究・管理運営等に貢献されてされました。私自身も、同じ学科の年齢の近い教員として、公私にわたり、いろいろとお世話になりました。本当にありがとうございました。ご退職後もお元気で活躍されますよう心からお祈り申し上げます。